

「中国における技術への問い その後」

ユク・ホイ × 中島隆博 対談

【日時】2023年4月25日（火）9:30-11:30

【場所】東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター3階 特別会議室/Zoom

【対象者】関係者限定

【言語】英語

ユク・ホイ先生は、『中国における技術への問い』（2016年、邦訳2022年）において、「宇宙技芸（Cosmotechnics）」という概念のもと、コスモスに対する構想力とテクネーに対する構想力が、世界各地でどのように発展し、交差してきたかを考えていらっしやいました。その文脈で、ハイデガーの「技術への問い」という近代ヨーロッパ的な問題系がどれだけ独自であるのかを明らかにしながら、その他の地域、とりわけ中国における「技術への問い」がいかにして可能なのか、あるいは不可能なのかを探究されました。その問いかけは、ラテン・アメリカにもおよび、先住民における「宇宙技芸」の可能性についても論じていらっしやいます。21世紀においてハイデガー的な「技術への問い」とは異なる問いが必要とされている中、宇宙や世界に対する新しい構想力もまた必要とされています。そのことをめぐって、対談をしたいと思ひます。

【ユク・ホイ氏プロフィール】



Yuk Hui wrote his doctoral thesis under the French philosopher Bernard Stiegler (1952-2020) at Goldsmiths College in London and obtained his Habilitation in philosophy from Leuphana University in Germany. Hui is author of several monographs that have been translated into a dozen languages, including [On the Existence of Digital Objects](#) (2016), [The Question Concerning Technology in China: An Essay in Cosmotechnics](#) (2016), [Recursivity and Contingency](#) (2019), and [Art and Cosmotechnics](#) (2021). Hui is co-editor of [30 Years after Les Immatériaux: Art, Science and Theory](#) (2015) and editor of [Philosophy after Automation](#) (*Philosophy Today*, Vol.65, No.2, 2021), among others. Hui is the convenor of the [Research Network for Philosophy and Technology](#) since 2014 and sits as a juror of the [Berggruen Prize for Philosophy and Culture](#) since 2020. He is currently a professor of

philosophy of technology at the City University of Hong Kong and a visiting professor at the Tokyo College, University of Tokyo.

【中島隆博氏プロフィール】

東京大学法学部卒業、東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻博士課程中途退学。研究分野は中国哲学、世界哲学。東京大学大学院総合文化研究科の准教授、東洋文化研究所の准教授（2012年10月）を経て、2014年4月より同教授。現在、東京大学東洋文化研究所所長/同東アジア藝文書院学術顧問。主な編著書に『中国哲学史——諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで』（中公新書、2022年）、『世界哲学史』（全8巻+別巻、ちくま新書、2020年）、『全体主義の克服』（集英社、2020年、マルクス・ガブリエルと共著）など。